

# 届け 世界の果てまでも

令和2年 4月28日  
No. 3  
文責 校長 飯久保一男

☆この通信は、学校の再開以降は、各家庭に配付させていただきますが、臨時休業中は、ホームページ上での公開とさせていただきます。

## ゴールデンウィークですが…

例年ですとこの時期は、休みが続き、大人でも楽しみにするのですから、子どもたちはワクワク・ウキウキする時期です。今年は「ステイホーム」となるゴールデンウィークとなりますが、子どもたちとたくさん話もできるのではないかと思いますので、祝日の意味などを話してみたいと思います。

月 日	祝 日	意 味
4月29日	昭和の日	激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす。 ※平成になる前は昭和の天皇の誕生日だった。
5月3日	憲法記念日	日本国憲法の施行を記念し、国の成長を期する。
5月4日	みどりの日	自然に親しむとともにその恩恵に感謝し、豊かな心をはぐくむ。
5月5日	こどもの日	こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、 <b>母に感謝する</b> 。

「5月3日は何の日?」「5月4日は何の日?」と小学生に尋ねても、全員正解とはなりません。ところが、「5月5日は?」と尋ねると、かなりの確率で「こどもの日!」と返ってきます。こどもの日は、それだけ有名な祝日です。「こども」とは、男の子・女の子の両方を指す言葉とのこと。注目していただきたいのは、「**母に感謝する**」日でもあるということです。

子どもの誕生日にもお祝いをしたりプレゼントを渡したりすると思いますが、私は、子どもの誕生日も、お母さんが産んでくれたことに感謝する日であってほしいと思っています。きっと、お母さん方は、子どもが誕生日を迎えると、その子が産まれたときのことを思い出すのではないかと思います。私は、こどもの日も子どもの誕生日も、お母さんのための大切な記念日だと思っています。

☆母に感謝する「こどもの日」・翌週の「母の日」にちなんで、子どもの詩を紹介します。

おかあさん  
まっお たく


おかあさんは、  
よそのひとにあつたら  
いつもぼくのこと  
「これ、うちのたからもの。」  
という。

ぼく、はずかしくなっちゃうよ。  
おかあさんは、  
ぼくがねるときいつも  
「こもりうた、うたってあげようか。」  
という。

「いいよ。」  
とっても  
「まあまあ、えんりよしなないで。」  
といって、うたいながらねてしまう。

ははのひに、  
かあねえしよんをあげて  
「ひやくさいまでいきろよ。」  
といったら、ないた。

おかあさんは、ぼくの  
たからものだ。



時計

有吉 秀頭

いつも動いている。  
少しは休め。  
時計みたいなお母さん。  
電池をぬくぞ、お母さん。



お母さん

小峯 かおり

お母さんは、お父さんが出張で  
いないあいだは、こわい人です。  
まるで、ひげがはえたように、  
いばっています。

でも、土曜日にお父さんが、帰る日には  
やさしい女の人にもどります。

お父さんは、そんなことしらないから、

「お母さん一本つけてよ」

とっています。

そしたら、お母さんは小さい声で

「ハイ」

と、かわいらしく、いいました。

お母さんありがとう

野地 きり

「お母さん、明日の朝まで、  
ゼッケンつけてね。」  
お母さんはしらんぷり。

夜ねる前に茶の間をのぞいてみた。

明るい電気の下に

お母さんのせ中だけが見えた。

つかれているようなせ中だった。

「お母さん、ゼッケンぬった。」

次の朝聞いてみた。

新しいゼッケンに

お母さんのおいが

しみこんでいた。

お母さん

吉越 大祐

夜中に、お手洗いで目が覚めた。  
時計の針は、十時を指している。  
居間のすきまから  
電気の明かりがこぼれている。  
お父さんとお母さんを驚かそうと  
ソツとソツと歩いた。  
「私、白髪があるわ。」  
「そんな年か。」  
という会話が、ぼくの耳に入った。  
ぼくは、クルツと回って、お手洗いに行き、  
急いでふとんにもぐった。  
天井の豆電球を見つめていたら  
涙が耳の中に伝わった。  
お母さん、  
ぼくの大切なお母さん。  
いつまでも若くいてほしい。



例年と違う形になる連休ですが、保護者の皆さんにとって、  
何より子どもたちにとって、素晴らしい連休となりますように願っています。